
海歌詩（うみうた）～優しい歌のお話～

彼方逝哉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

海歌詩うみうた〜優しい歌のお話〜

【Nコード】

N1483P

【作者名】

彼方逝哉

【あらすじ】

小さいころに歌っていた歌を思い出したの。

あの歌の内容はきつとわかっているはずなの。

人間に恋をしてはいけないと古くから教えている歌。

でも…でもね。

それは昔々のお話で。

今だったならきつと大丈夫だと思うの。

母さんもそうだったのでしょうか？人間に恋をして。

幸せでしょう？

今の母さんみたいになれるように頑張るの。

昔々人魚のお姫様がそうしたように。

昔々母さんがそうだったように。

私はいきていくのでしよう。

このお話は私月稲プディング（げっとうプディング）のお話。
まだ私が幼かったころのお話。

物語を始めましょう。

貴方のために。

私のために。

優しい歌を歌いましょう。

プロローグ（前書き）

この小説は二次創作でありオリジナルのキャラクターを使った過去のお話となっています。

そういうものがお嫌いな方はバックホームでお願いいたします。

スタークロス学園に登録されています私自身のオリジナルキャラクター「月稲プディング」のサイドストーリーでございます。

興味がおありの方はお読みくださいませ。

プロローグ

小さいころに歌っていた歌を思い出したの。
あの歌の内容はきつとわかっているはずなの。
人間に恋をしてはいけなないと古くから教えている歌。

でも…でもね。

それは昔々のお話で。

今だったならきつと大丈夫だと思うの。

母さんもそうだったのでしょうか？人間に恋をして。
幸せでしょう？

今の母さんみたいになれるように頑張るの。

昔々人魚のお姫様がそうしたように。

昔々母さんがそうだったように。

私はいきていくのでしょうか。

このお話は私月稲^{げつとうプディング}プディングのお話。

まだ私が幼かったころのお話。

物語を始めましょう。

貴方のために。

私のために。

優しいのは歌だけで良いでしょうか？

私は優しくなどありません。

神様。

あわになって人魚のお姫様は消えてしまったのですか？
そうだとするならば。

私はどうなってしまうのでしょうか。

ごめんなさい。

私は人間を好きになってしまいました。

昔々のお姫様と同じように。

昔々の私の母のように。

簡単な事でした。

優しい歌を歌いましょう。

それはきつと貴方を慰める歌に変わるでしょう？

たった一夜の恋であってもそれは許される事でしよう？

貴方のために歌いましょう？

私が居た証を残したいのです。

たった一度の恋だから。

優しい海歌詩^{うみうた}を歌いましょう

後悔をしないように。

私の生まれた場所をお話しましょう。

深い深い海の底…と言いたい所ですが…。

「コールスール」と呼ばれる街で私は生を受けました。

小さな小さな港町。

母以外「純粋な人魚」が居なくなったこの町で。

私は生まれたのでした。

この街で言う「人魚」というのはほかの場所では「さかなあし族」と呼ばれる種族の事。

幼い私にとっての母が最初で最後に見た「コールスールの人魚」なのでした。

コールスールに住むさかなあし族には遠い昔から定められた掟がありました。

昔々のお姫様がああならなければ生まれなかった掟なのでした。

一・13になるまでに性別を決める事。

一・16になるまでは大人と認めない。

一・20になるまでに「ヒト」として生きるか「人魚」として生きるか決めなければならない。

……

小さなころに話してもらった昔話。

昔々コールスールに住む人魚姫は海に住んでおりました。

16になったある日お姫様は人間の住む陸に上がりました。

お姫様は人間に恋をしました。

居てもたつても居られなくなったお姫様は魔女に頼んで人間の足と自分の声を交換しました。

そうしてお姫様は陸の上で人間と生活を始めたのでした。

人間には好きなヒトが居ました。

それはこの人魚姫ではない人間でした。

人魚姫は悲しみにくれてぼろぼろと真珠の涙を流しました。

姫のお供の妖精は彼女のために懐剣を渡しました。

男の胸にそれをつきたてて殺してしまえば声が戻ると

妖精は言ったのでした。

時間はこくくと過ぎていきます。

人魚姫は声を取り戻すかこのまま泡となって消えるか選ばねばならなくなったのでした。

声を選べば永遠に自分の思い出の中で彼は生き続けるのです。

泡となって消えてしまえば永久に彼には会えなくなるのです。

人魚姫は選択をしたのでした。

泡になって消えるほうを選んだのでした。

いっそ消えてしまったほうが良いと姫は思ったからだだったのでした。

姫は海に身を投げて。

海の底に落ちてゆっくりと泡になって消えていったのでした。

その表情は幸せそうだったのでした……。

……

そんな昔話を思い出したのでした。

この人魚姫はきっと魔女になったんだと幼心に思ったのです。

つい最近学園に通っているお友達と遺跡探索に行ったのです。

何故か懐かしい場所が見えた気がしたのです。

昔夢で見たような場所。

優しい香りのその場所は一度も来た事がないのに酷く懐かしかった
のでした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1483p/>

海歌詩（うみうた）～優しい歌のお話～

2010年12月22日21時02分発行